

魔法の Wallet プロジェクト活動報告書

報告者氏名：小路健太郎 所属：袖ヶ浦市立蔵波小学校 記録日：2020年2月11日
キーワード：感覚過敏、コミュニケーション、読み書き支援、学習支援、学習保障、学習意欲、自己肯定感

【対象児の情報】

○学年 小学5年生の男児

○障害名 注意欠損多動性障がい (AD/HD)

○障害と困難の内容

- ・多動、衝動が顕著に高く、学習面、対人関係の課題が多い。
- ・成功体験や頑張って良かったという体験ができていない中、学習に対する意欲を失ってきた。
- ・2年生から自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍。

【活動進捗】

○当初のねらい

- ①学習を通して、粘り強く取り組む力をする。
- ②評価をうける場を意図的に作ることで、自己肯定感を支え、良好な関わりの体験につなげる。

○実施期間

2019年5月から現在

○実施者

小路健太郎

○実施者と対象児の関係

自閉症・情緒障害特別支援学級担当教諭と特別支援学級児童

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・多動、衝動が顕著に高く、学習面、対人関係での課題が多い。
- ・WISC-III（6歳8ヶ月）

言語性 IQ : 82 動作性 IQ : 104 全検査 IQ : 92

言語理解 : 86 知覚統合 : 103 注意記憶 : 82 処理速度 : 100

・ソーシャルスキル尺度（小学校用）【評価点（合計素点）】

集団行動 2 (18) セルフコントロール 3 (7)

仲間関係 8 (21) コミュニケーション 5 (9)

・児童コンピテンス尺度

学習領域 18 社会領域 21

運動領域 26 自己価値領域 21

・URAWS

<書き速度> 書き課題 手書き 60字÷3分=20字 評価B

書きの介入課題 解答用紙を拡大(B4サイズに) 65字÷3分=21.6字 評価B

<読み速度> 読み課題 個別実施 180字÷38秒×60=284.2 評価B

<内容理解問題> 読み課題(自分で読んだ後) 正答数 5/6問中 評価5 正解以上

本人の主観的評価 4:どちらかといえば読んでもらう方がわかりやすい

学習面について

- ・積み上げの不十分さはあるものの、自学年の課題を読むことはできる。ただし、自分で読んでの内容理解は難しい。読み上げてもらうと、理解して答えることができる。
- ・書くことへの抵抗は大きく、字形も整わない。漢字については、2年生の漢字までは定着している。
- ・想起して3年生以上の漢字を書くことは難しいが、お手本があれば、正しく書くことができる。
- ・短い感想などは自分で書くことができる。
- ・たし算、ひき算、かけ算は定着している。わり算は九九で解決できる計算までは、解くことができる。
- ・昨年度まで、自分のしたいことを中心に活動してきており、知的な遅れはないものの学習の積み上げはできていないものが多い。
- ・「できないこと」に対していろいろしたり、かっとなってしまったりすることがある。
- ・「できるようになりたい」「みんなと同じような学習をしたい」という思いは持っている。
- ・物を作ったり、体を動かしたりする活動を好む。制作活動は、不器用さもあるため、思うように仕上がる不容易を起こすこともあるが、意欲的にやりたがる。運動は得意。
- ・交流学級での学習は、あまりしたくないと思っている。
- ・野菜作りなどの活動では、進んで草取りや水やりをする姿も見られる。

対人関係面について

- ・「一緒に遊びたい」思いはあるが、ルールの共有が難しく、集団の中ではトラブルになることが多い。
- ・検査結果からも、視覚的な情報の理解に強みがあるのに対し、言葉を介しての理解には苦手さが大きいため、相手の意図を上手くくみ取れなかつたり、自分の思いを誤解なく伝えたりすることが難しい。
- ・トラブルになることや上手くいかなかつた体験を重ねてきており、周囲から指摘されるとすぐにかっとなつてしまう傾向がある。
- ・大人がやりとりの橋渡しをしたり、子ども同士の関わりの中に参加して周囲の意図を伝えたりすることで、トラブルは以前よりは減ってきている。
- ・低学年のお世話をすることを好むなど、「してあげたい」「役に立ちたい」という気持ちも持っている。
- ・落ち着いて過ごせているときは、周囲の友達の行動が気になり、常に指摘したり注意したりする姿が見られる。

以上の実態は、以下の経過から生じてしまったと考えている。

- ・高い衝動性と敏感さがあり、刺激の多い中の学習の成立が難しく、安心して学習できる環境もあまり作って来られなかつた。
- ・読み書きに困難さが有り、音の情報や書く音の負担を軽減する対応が必要だが、そうした意図を持って学習形態や学び方が保証されてこなかつた。
- ・成功体験や頑張って良かったという体験を積むことができていない中、学習に対する意欲を失ってきた。

○活動の具体的内容

①学習を通して、粘り強く取り組む力をつける。

ねらい	活動の具体的な内容	対象児の様子
刺激を軽減する環境調整	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションで区切るなど、物理的な刺激、視覚情報を減らすことを行う。 ・パーテーションで区切ることなどを行ったが、最終的に、壁に向かって机をむけることにした。 	<p>○壁に向かった机で学習や作業に集中して取り組むことができた。集中して行いたいときは壁に向かった机、社会など教科書や資料集を広げて学習する際には大きな作業用机、みんなと一緒に学習する場面では黒板に向かっている机と学習により使い分けていた。壁に向かった机で、気持ちを落ち着かせるために絵を描くこともあった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・音の刺激を減らすために、ノイズキャンセラー付きヘッドフォンを使う。漢字練習や視写などの、自信があり、一人で集中して行う活動の時に使っていった。 	<p>○ノイズキャンセラー付きヘッドフォンを使っているときは、集中して学習することができた。活動に合わせて、自分で選択してノイズキャンセラー付きヘッドフォンを使うようになった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に出す課題の数や量、一枚に書かれている問題数の調整をする。最初は少なくし、集中してできる量や数を行い、だんだんと量や数をこなせるように児童の様子から判断して取り組ませていく。 <p>【集中して取り組める内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書く漢字練習（5文字×3回） ・見開きで読み切る文章問題 ・自力で取り組めるドリル1ページ ・教科書の一部分をノートに視写すること ・音楽を聴いたり、動画を見ること ・タブレットを使って、学習すること ・教師と一緒にやりとりをしながら、電卓も活用することで、少し難しい問題も取り組むことができた 	<p>○漢字練習は、学級の友達がやっている漢字小テストを自分もやりたいという気持ちになり、途中から小テストを行った。国語の時間の最初は、漢字アプリから始めているが、自分から iPad mini で漢字アプリを開いて学習することもあった。</p> <p>○国語の見開き2ページの文章問題は、最初は教師が読み、その後、自力で解いていった。最初は、本文の中から根拠を見つけることが難しかったが、本文と問題文を線で結んだり、印を付けることで、本文の中に根拠を見つけようとすることができてきた。自分で読んで問題に取り組む姿も見られた。</p> <p>○算数の学習では、教師と一緒にやりとりをしながら、電卓も活用することで、少し難しい問題にも取り組むことができた。</p> <p>○社会や理科の学習では、NHK for school の動画を集中して見る事ができた。資料集に出てきたサイトなどを検索して、学習することにも積極的に取り組んだ。</p>
読み書きの困難さを支える	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が文章を読んだり、読み上げソフトを活用したりすることで、音の情報があれば、読み進めていくことを実感させる。 	<p>○教師が文章を読むのを聞いての学習はよくできた。内容理解もできた。見開き2ページの文章題を自分の力で解こうとしていた。</p> <p>○録音したものを聞いたり、動画を見たりすることは、5分程度に量を調整することで、集中して学習を進めていく姿が見られた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や黒板に書かれたことの視写を、キーボードを使って入力することを行う。 	<p>○ローマ字入力に興味を持って取り組んでいた。必要に応じて、ローマ字表を見ながら文字を打つ活動に取り組んでいた。</p> <p>○教科書や黒板に書かれたことの視写は、ノートに手書きすることを選択して行っていた。ローマ字入力に時間がかかるため、ノートに手書きすることを行っていた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 教師が文章にルビを振ったり、辞書アプリなどを使って自分で漢字の読みを調べたりすることで、文章を読むことができるようになる。 	<p>○ルビを振ったものに取り組ませたところ、ある程度読むことことができた。</p> <p>○電子辞書の使い方がわかると、自分から意味調べに取り組むようになった。紙の国語辞典では、調べるのに時間がかかっていたが、電子辞書では調べる時間が短くなった。</p>
イメージと見通しの持てる提示	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードに、学習する内容を項目立てて掲示し、学習の見通しを持たせる。 	<p>○次の学習が何かを休み時間に確認する姿も見られた。</p> <p>○国語の時間は、漢字練習から始めているが、自分からiPad miniを持って行き、意欲的に取り組む姿も見られた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 学習する内容、該当箇所を明確にするために配慮をして、該当箇所を囲んだり、他が見えないようにしたりする。学習する量がわかりやすくする。 	<p>○どのくらい学習するかのイメージがついてきたようで、「ここまでやればいいの？」と学習内容の確認をすることがあった。終わりが見えるので、集中して学習することが増えてきた。</p> <p>○学習する量が多いときは、「減らしてほしい。」と言葉で伝えることができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 1日の振り返りや活動の感想を記録し、カレンダーアプリに登録し、積み重ねを実感させる。 	<p>○1日の振り返りを選択式にしたところ、自分で選択することができた。徐々に、選択した理由として、1日の中で頑張っていたことを教師が伝えることができた。教師の言葉にうなずいたり、自分の言葉で頑張ったことを伝えたりするようになった。</p>

②評価をうける場を意図的に作ることで、自己肯定感を支え、良好な関わりの体験につなげる。

活動の具体的内容	対象児の様子
<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級での学習（例えば、野菜作り、交流学習、バザーへの取り組みなど）を交流学級の児童や特別支援学級の他の学級の児童に伝える活動を意図的に取り入れる。 	<p>○グリーンカーテンや野菜を作る活動では、率先して取り組んでいた。その様子をカメラアプリで撮影し、写真の枠外にコメントを書き、掲示物にした。掲示物にすることで、他の学級の児童や先生方から声をかけられ、嬉しそうにする姿が見られた。</p> <p>○合同学習会にむけての発表内容を決める時に、自分の考えを採用され、進んで参加することができた。衣装を用意した</p>

	<p>り、練習したりと率先して活動することができた。</p>
・興味を持って取り組めるICTを活用したプログラミングを学習し友達に教えたり、学習した内容をICTでまとめ、友達に向けて発表したりする機会を計画的に取り入れ、友達と良好に関わることができるようにする。	<p>○「Viscuit」を使って動く絵を作ろうという学習を行った。わからなかったことを友達や教師に聞いたりする姿が見られた。簡単なゲームを作ったが、それを友達に紹介するときも堂々と教える姿が見られた。自分の作ったゲームを友達にやってもらえることをうれしそうにしていた。好きな活動や見てもらいたいと思うものについての学習だったこともあり、本人が聞いてほしいと思う相手に伝えることができた。</p>
・既習の内容を低学年の児童に教える活動を通して、わかりやすく教えたり、丁寧な言葉を使ったりすることで、特別支援学級の児童同士の良好な人間関係作りにつなげる。	<p>○同じ教室で学習している2年生の児童に教える姿が見られた。答えを教えてしまう場面が多くだったので、ヒントを与えるように伝えると、工夫して教えようとする姿が見られた。人に教えて上手くいったり、「ありがとう。」と感謝の言葉を言われたりすることで、うれしそうにしていた。</p> 
「漢字忍者(手書き漢字ドリル 1026)」を活用した漢字学習に集中して取り組む。	<p>○3年生の漢字練習をアプリ、漢字練習帳、小テストと継続して取り組んだ。アプリの積み重ねを見る事で、あと少しで3年生の漢字が全部学習したことになるということで、意欲的に取り組んでいた。学習に取り組めていることを教師から伝えることで自信を付け、国語の授業の始まりは漢字学習ということがわかり、自分から進んで取り組むようになった。最終的には、3年生、4年生の漢字の学習を終え、5年生の漢字の学習をしている。</p> 
さくら社の「子どもが夢中で手を挙げる算数の授業」で視覚的に算数の学習を理解する。	<p>○パソコン画面を見て、操作しながら、視覚的に理解することができた。動きのある画面で理解すると、教科書の学習や問題に取り組むことができていた。見て理解し、問題を解くことができ、自信をつけていた。ノートに書いて何度も練習することは苦手だが、操作しながら何度も問題に取り組むことで、算数の理解を深めることができた。</p> 

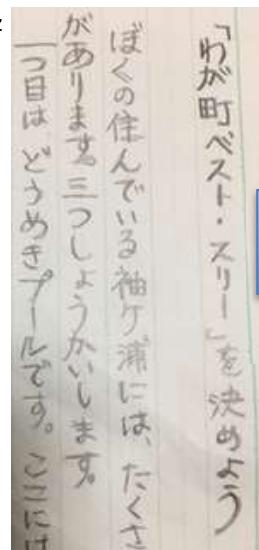
○対象児の事後の変化

- ・時間割にそって学習することが増えた。
- ・集中して学習することができるようになった。
- ・自分から次の学習へと進むことができた。
- ・がんばったことを話すことができた。
- ・特別支援学級の低学年の児童に優しく教える姿が見られた。
- ・他学級の友達から認められることで、うれしそうにしていた。

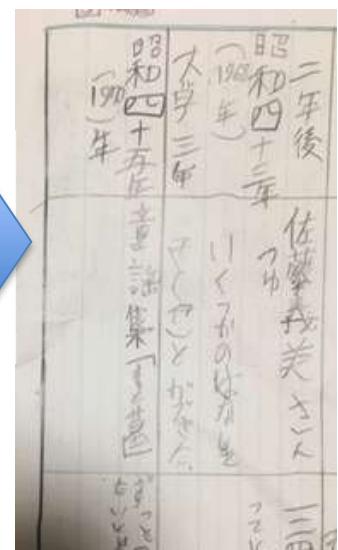
【主観的な気づきとエビデンス】

- ① ICT 機器を活用し学習に興味づけを行い、個の困難さを理解し、それに合わせた学習環境や内容を調節したことで、集中して学習することができてきたのではないか。

最初は、ノートを使った学習ではなぞり書きで学習を進めていた。漢字学習のアプリや NHK for School などの iPad mini を活用した学習に集中して取り組めるようになったことで、意欲的に学習に向かう姿が増えてきた。教師が一緒に読み進めていくことで、必要な情報を取り出し、ノートに書くことにも挑戦していた。学級の友達の様子を見て、漢字練習や小テストなどもやりたいという言葉が、児童が出てきたのも、ICT 機器を活用してやってみようという気持ちが出てきたからであろう。



最初はなぞり書きで
ノートを書いていた。



教科書から必要な情報を
取り出し、ノートにまとめる。

- ② まわりの仲間や先生から認められ、感謝される経験から、学習に前向きに取り組む姿が増えてきたのではないか。

学級で最高学年であるので、低学年の面倒を見たり、教えてあげたり、手本として頑張ろうという姿が見られた。昨年度まで同じ学級であった友達から、学習に集中して取り組むことが多くなったことを伝えられ、嬉しそうにする姿も見られた。また、学習内容が難しいときは、「少し減らして欲しい。」と伝えられるようになったのは、見通しを持って学習することができるようになってきたからではないかと考える。ドリルやテストなどにも取り組み、最期まで終わったドリルやノートへの花丸を見て、嬉しそうにする姿も見られた。

	癇癪の頻度	癇癪の程度	交流学級との関わり	学習の様子
介入前	1日に複数回、大きな癇癪があった。	落ち着くまで時間がかかることが多かった。	交流学級での学習や活動があまりできなかつた。	学習の積み重ねが多かった。プリントやドリルが中心であった。
介入後	大きな癇癪は、1週間に平均 0.8 回。(10月～12月)	授業時間の中で落ち着き、休み時間には友達と遊ぶ姿があった。	朝の会や学活への参加、見学もあるが体育授業へ参加している。	8割程度、当該学年の学習内容に取り組むことができている。